

5 「道」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2016 in Higashimikawa

テーマ「新しい人の流れを支える広域幹線道路ネットワークづくり」

コーディネーター	豊橋市	市長	佐原 光一
報告者	中日本高速道路株式会社 名古屋支社	建設事業部長	江口 喜信
議会	浜松市議会	議長	鈴木 育男
議会	豊橋市議会	議長	古関 充宏
議会	飯田市議会	議長	木下 克志
行政	豊川市	市長	山脇 実
行政	新城市	市長	穂積 亮次
行政	田原市	市長	山下 政良
行政	駒ヶ根市	市長	杉本 幸治
行政	下條村	村長	伊藤 喜平
経済	駒ヶ根商工会議所	会頭	山浦 速夫
経済	天竜商工会	会長	大村 邦男
経済	湖西市商工会	会長	佐原 正晃
住民	NPO 法人地域づくりサポートネット	代表理事	山内 秀彦
住民	鞍掛山麓千枚田保存会	会長	小山 舜二

(敬称略)

■はじめに

コーディネーター／豊橋市 佐原市長



今、ご紹介いただきましたように本日のこの「道」分科会のコーディネーターを務めさ

せていただきます豊橋市の佐原でございます。皆様方どうぞよろしくお願ひいたします。

この部屋は200人ぐらいから250人ぐらいの演劇と音楽用の部屋です。したがいましてさきほどの部屋よりはちょっと音が反響するようですが、よく見ますとわかりますように両側の煉瓦が互い違いで組んであって、音が均一に反射しないように乱反射するようになっております。それは実際に地元の煉瓦工が1個ずつ積み重ねてつくった本物の煉瓦造りでございます。何かの折にさわってみていただきたいと思います。今ここで皆様が集まっているここが舞台になりまして、背中を向いている人は本当に失礼な演技者という

格好なのですけれども、むこうを向くとちょっと威圧感があるお客様の席になっていますので、そちらはお客様のつもりでやるのではなくて参加者の1人としてぜひ客席側の方もご一緒に議論に参加していただけるうれしいなと思います。

今日のメンバーを見ていきますと、やっぱり浜松市は道路が恵まれているというのがよくわかります。参加者に浜松市は議長さんしかいらっしゃらないです。ほかにいらしても旧浜松市ではない方です。浜松は、実はインターチェンジが7つか8つぐらいあるのではないかでしょうか。豊田市と並んでインターチェンジが多いまちですね。東三河のメンバーは首長を含めて結構いらっしゃるのが、道に飢えているからだということがよくわかりますね。田原なんか何にもないと言っています。ちなみに豊橋市も、高速道路が一部横切っている区間を除きますと、時速60キロを超えて走れる法定速度の道路が1つもないというまちで、多分全国の30万以上のまちでは唯一無二のまちということになっていますので、飢えていることがよくわかると思います。

もうひとつは、多分昨年度のテーマを見ていきますと、大変大事な道路をまちの中で、活かしていくのではないかといろいろなことを考えている方たちのお集まりだと思います。

最初に前年度のサミット分科会の議論のまとめと本日の分科会のテーマ、どんなお話をしたいということについて事務局から説明をさせていただきます。そのあと、中日本高速道路株式会社、名古屋支社の江口喜信建設事業部長から「新東名高速道路の豊田東ジャンクション～浜松引佐ジャンクション間の開通とその整備効果について」と題してご報告をいただくことになっています。それが終わったあとで意見交換を行っていただきまして、今後推進していく議論等についてご意見をちょうだいできたらと考えています。

それでは、事務局からまず前年度サミット

の分科会の議論のまとめ、そして本日のポイントについて説明をお願いいたします。

事務局

それでは、前年度の議論について確認させていただきたいと思います。

一昨年10月27日開催の第22回三遠南信サミット2014in遠州の「道」分科会では、「中部圏の中核となる地域基盤の形成」をテーマに、交通基盤整備による効果とその効果を高める取り組みについて意見交換をいただきました。

その内容をまとめますと、大きく3点になります。

1つに三遠南信自動車道などの整備が進み、救急体制の拡充や生活圏の拡大、観光・産業の活性化など、本地域の活性化が徐々に図られつつあること。

2つ目、一方、今なお整備が途上であったり、一部遅延するものがあったりなど、交通基盤の整備における課題は依然として存在すること。

3つ目、人口減少時代における三遠南信地域のさらなる活性化の基盤づくりとして、三遠南信自動車道を始めとした基幹道路の早期整備をめざし、地域全体が一丸となって国及び県に強く要望する必要があること。

以上が昨年度の分科会の概要でございます。

続いて本年度のポイントであります。今年度のテーマは「三遠南信地域の創生」でございます。昨年度のサミットから、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。主なものとしまして、国は地方創生戦略を策定し、地方自治体も戦略を策定するなど、全国的に地方創生の取り組みが進められていること。

2点目は、昨年8月に新たな国土形成計画が閣議決定され、その中において対流促進型国土の形成を基本構想としていること。

3点目としまして、のちほど江口様のほう

からご報告があろうかと思いますが、新東名高速道路の浜松いなさジャンクションから豊田東ジャンクションまでの区間が開通し、企業立地の促進、あるいは観光圏域の拡大など地域の活性化が期待されることなどでございます。

こうした時代の流れを三遠南信地域における地方創生に結びつけるため、三遠南信自動車道の着実な整備や浜松三ヶ日豊橋道路の計画など、ネットワークの早期実現に対する地域の期待や課題などについて改めて認識の共有を図りますとともに、圏域内外からの新たな人の流れをつくり、地域間で連携して取り組む課題や今後の方針性について議論を深めることが大切であると考えています。

そのため、本年度の「道」分科会のテーマとしまして、新しい人の流れを支える広域幹線道路ネットワークづくりを取り上げ、皆さんに意見交換をお願いしたいと考えるものでございます。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

どうもありがとうございました。

それでは、引き続きまして NEXCO 中日本名古屋支社の江口様から、新東名高速道路（豊田東ジャンクション～浜松いなさジャンクション間）の開通と整備効果についてご報告をいただきたく存じます。よろしくお願ひいたします。

■ 報告

中日本高速道路株式会社 名古屋支社 江口建設事業部長

みなさん、こんにちは。中日本高速道路株式会社名古屋支社建設事業部長の江口でございます。

まず、新東名高速道路豊田東ジャンクション～浜松いなさジャンクションにつきましては、この13日土曜日、15時に無事開通を迎えることができました。お約束していたよりも、

のり面崩落とか重金属、あと橋梁の沈下等がございましたが、1年おくれになりましたが、無事開通を迎えることができました。これもひとえに今日ご出席の皆様初め、関係者の皆様のご支援ご協力のたまものでございます。改めて感謝申し上げます。

それでは、説明に入らせていただきます。

今回の開通によりまして、新東名高速道路につきましては、静岡県の御殿場ジャンクションから豊田東ジャンクションまで、今回55キロ開通した区間も含めまして200キロのダブルネットワーク、東名高速道路と新東名高速道路というダブルネットワークが完成しました。

こちらは、土曜日午前中に行われました開通式典の様子でございます。皆さんにご出席いただきまして無事とり行うことができました。土曜日につきましては、午後から荒れた天候になりましたが、開通式典の間は、朝方雨が降りましたが、式典のあった9時ごろから昼ぐらいまでは雨も風もやんで無事とり行うことができました。

会場としては、岡崎会場と新城会場ということで2つに分けて行いまして、新城会場では、新城出身の太田前国交大臣にごあいさつをいただいてイベントを進めさせていただいたという状況が、こちらの右下の写真です。

こちらは、開通区間の状況です。お配りしていた資料の中よりは最新のものを入れさせていただいておりますが、こちらが開通区間の状況をあらわしています。

開通区間の特色としまして、こちら、走行性ですけれども、新東名高速道路では、既に開通している静岡県区間と同様、東名高速道路に比べ道路のカーブや勾配を緩やかにするとともに耐久性の高いコンクリート舗装採用するなど、より安全で快適な走行環境を提供しますということで、東名高速道路は勾配が最大5%ぐらいありますが、新東名高速道路については最大でも2%しかない。規制速度は

100キロになりますが、設計速度としましては120キロを確保した設計となっております。

トンネル内での視認性ということで、LEDライトによりまして前方を走行する車や落下物を照らすことでドライバーが視認しやすくした前方を照明するプロビーム照明というものを採用しております。

橋梁のスリム化・コスト縮減という点において、新東名高速道路では橋梁など構造物が非常に多いということから、ストラット付のPC箱桁橋形式や鋼少主桁形式などのスリム化した橋梁形式を採用することによりまして、工事に使用する材料を軽減し、コスト縮減の取り組みを行っております。

地域環境への配慮としまして、盛土斜面では、もともと地域に自生している植物の苗を種から育てて盛土に植樹しています。また、工事に伴い、付替えた水路では、ナガレホトケドジョウなどの貴重な生物の生活環境に配慮した護岸工事を行っております。

こちらは、休憩施設でございます。今回の開通区間には、岡崎サービスエリアと長篠設楽原パーキングエリアをオープンします。

岡崎サービスエリアは、東海道五十三次の38番目の宿場というものをイメージしております。それと岡崎サービスエリアは、上り下り集約型でございまして、今言ったのは上り線、上のほうは宿場をイメージしています。反対側の下り線ですけれども、そちらは森のエントランスというものをイメージして、この顔みたいなものがありますけれども、あれは愛知県の県鳥であるコノハズクというものをイメージしてつくってあります。

それから、右側の長篠設楽原パーキングエリアでございますが、こちらにつきましては、長篠設楽原の戦いをイメージしております。上り線は武田軍をイメージしてつくっております。下り線は、織田・徳川連合軍をイメージしてつくっております。こちらにつきましても、開通して昨日はどちらも、サービスエ

リア、パーキングエリアに入る車で走行車線一番左の車線が渋滞、岡崎サービスエリアは最大4キロほど、長篠設楽原もちょっと渋滞が見られるということで、開通してすぐたくさんの方にご利用いただいているという状況でございます。

こちらの施設の駐車場規模でございますが、岡崎サービスエリアは上下集約で7万1,000平方メートルほどございまして、上り線が大型99台、小型が137台、下り側が大型92台、小型が139台、それから地域の方々が高速に入らなくても外側から利用できるぷらっとパークという駐車場を整備しております、こちらに60台とめていただけるというかたちで整備しております。

こちらの長篠設楽原パーキングエリアでございますけれども、こちらは上りと下りが分離型でございまして、上りは2万9,000平方メートル、大型68台、小型31台、ぷらっとパーク30台の駐車場を整備しております。下りにつきましては、3万3,000平方メートル、大型61台、小型28台、ぷらっとパーク30台という整備をしております。

先ほど東名高速道路で3万台減ったということを、昨日の状況から見られるということでございましたけれども、東名高速道路の慢性的な渋滞は大幅に緩和ということで、東名高速道路の三ヶ日ジャンクションから豊田ジャンクションでは年間600回程度の渋滞が発生しております、新東名高速道路の開通によりまして交通の分散が図れることで東名高速道路の交通量が減り、約8割の渋滞が削減されるものと考えております。

ただし、東名高速道路の三ヶ日から豊田ジャンクション間は、この区間を発着する交通量が多く、これらの交通は新東名高速道路に転換されないため、交通が集中する通勤時間帯や交通混雑時において渋滞が一部残る見込みということでございます。今、豊川、音羽蒲郡、岡崎というのは、それぞれインターチ

エンジの出入りが3万台ほどありますて、通勤時間帯は若干渋滞が残るという見込みをしております。

次は、大規模災害時の早期復旧への貢献についてでございます。新東名高速道路は、東名高速道路より山側を通過するために、近年、発生が危惧されています南海トラフ巨大地震が発生した際にも被害を受けにくくなっています。新東名高速道路の開通によりましてダブルネットワークを形成し、リダンダンシーが確保され、災害時の救援救護活動や復旧活動支えていけるということになります。

次に、大規模災害時の拠点機能についてでございます。休憩施設におきましては、災害発生時における自衛隊などの進出部隊の拠点機能及び高速道路をご利用されるお客様や地域住民の皆様の一時避難場所としての機能を有しております。主な設備としましては、緊急輸送用のヘリポートや自家発電設備、飲料水確保のための給水用非常用水栓、炊き出し用のガスユニットなどがあります。防災倉庫には食料、保存水、救護用品に加え仮設トイレ、夜間照明などを備えております。

各休憩施設では、年2回の防災訓練に加えまして、警察、消防などの関係機関と連携した訓練を実施しております。

次に、大規模更新工事における交通への影響軽減でございます。大規模更新工事を実施するためには長期間にわたる工事車線規制が必要になりますが、大きな渋滞が予想されます。新東名高速道路の開通によりまして、東名高速道路の代替ルートとして機能することで東名高速道路の大規模更新時の交通への影響を軽減できるということも考えております。

こちらは、観光産業への貢献でございます。新東名高速道路の開通によりまして、奥三河地域を日帰り圏域としまして車で90分以内に訪れるができる人口が約540万人から940万人に400万人ほど増加する。沿線の観光資源へのアクセス向上によりまして、地域の活性

化が図れるものと考えております。

次に、工場立地の促進についてでございます。左のグラフでございますけれども、2008年に起きたリーマンショック後の経済指標から工場立地は横ばい傾向にあったものの、開通されて件数が急激に増加しております。新東名高速道路の開通による利便性の向上によりまして、企業立地の増加と日本のものづくりの中心である中部圏域の産業の活性化が図れるものと考えています。

右側の岡崎東部工業団地、新城有海工業団地の状況を写真で載せておりますけれども、これとあわせて岡崎市の緑園工業団地、それから新城市の大宮・竹広工業団地、こちらについてもすべて完売と聞いております。

次に、物流効率化に関する効果でございます。この絵は、青い星のところ、数か所ございますが、こちらについては、新東名高速道路静岡県区間が整備される前にあった物流拠点でございまして、赤い星、これが新東名高速道路静岡県区間の開通後に整備されたものです。24年4月以降、整備されたものでございまして、新東名高速道路愛知県区間が開通しました今後の整備予定として左の黄色い星が既に予定されているということでございます。長距離輸送は、昼間渋滞するので基本的には夜間で行われておりますが、今回のダブルネットワーク化によって定時制が確保されるということで、夜間以外の輸送の検討が今進められていると聞いております。

最後、資料はないのですが、雇用の点について話をさせていただきたいと思います。

まず、雇用の創出ということで休憩施設、先ほど岡崎と長篠設楽原という話をしましたが、こちらのテナントの営業関係の職員ということで、岡崎は290名ほど、それから長篠設楽原は上下線合わせて70名ほど、テナント関係で360名ほど今回新たに募集して配置しております。

それから、休憩施設の清掃関係、私どもの

メンテナンス会社がありますが、岡崎のサービスエリア、上下集約ですが、そちらで40名、長篠設楽原で28人ほど今回新たに雇用しているという状況でございます。

それとあわせて料金所やパトロールの人員も若干、新たに増員ということあります。それ以外にも先ほどの工業団地とかそういうこところで進めば、必ず雇用がさらに波及されると考えております。

説明は以上でございます。私どもの高速道路事業につきまして、引き続きご支援ご協力のほどをよろしくお願ひします。

ありがとうございました。



■意見交換

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

江口様、どうもありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきます。円滑な進行にご協力をお願いいたします。

先ほど中日本高速道路株式会社江口様に新東名高速道路の開通の効果について、開通により、交流人口の増加や企業誘致の促進などが見込まれるという大変うれしいご報告がございました。その反面、開通による効果を我がまちに取り込むためには、三遠南信自動車道の着実な整備や浜松三ヶ日・豊橋道路の計画など広範な交流ネットワークの早期形成や各市町の取り組みに反映させるなど、さまざまな課題もあるかと思います。

そこで、開通を契機といたしました各地域の課題、それから今後の取り組みについてお

考えをまずお聞かせいただけたらと思います。

それでは、まず新城インターチェンジと長篠設楽原パーキングエリアが供用開始された新城市的穂積市長からお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

新城市 穂積市長

新城市長の穂積亮次です。

新東名高速道路愛知県区間が一昨日に開通しました。

ここ2日間ですけれども、目に見えた変化といたしましては、新城市内の一般道を走っている車で名古屋ナンバーが非常に多くなりました。特に土曜、日曜、天気は悪かったのですけれども、私どもが名古屋を豊橋ナンバーの車が走っていても何も話題にもならないけれど、新城で名古屋ナンバーを見ると話題になるという、そんな変化が如実に起こっています。ここ数年間ほどは、三遠南信自動車道や新東名高速道路の浜松、静岡県側の開通によって新城の行楽地に結構浜松ナンバーがたくさんみえていたのですけれども、ここ2日間で名古屋ナンバーが一挙に目につくようになったのが大きな変化でありますので、報告させていただきます。

私ども新城市は、今日の須田先生のお話の中といえば古来豊川、天竜川の水運の陸の往路の結節点として栄えてきたまちですけれども、戦後は内陸工業地帯として衣を変えてこれまでやってきました。今回の新東名高速道路の開通によって、その内陸工業地としての製造業、集積をさらに進めていくという課題は、これまでと同じですが、さらに加えて観光交流と名古屋圏の方々の通勤・通学あるいは居住環境としての整備に大きな力を入れていくという、まちづくりにもう1つ新しいファクターが加わってくるだろうと見込んでいます。

そのために今年の7月ぐらいから、新城市内と名古屋のまちの中を直通で結ぶ通勤通学

用の高速バスを、1日3往復ほど運行する予定にしております。これによって、新城から名古屋圏の大学等へ通う若い人たちの利便性を図るとともに、今度は逆に名古屋圏の皆さんに居住環境としての新城の魅力をアピールして、新しいまちづくりの可能性を開いていきたいと思っています。

先ほど、江口さんのお話にありましたように奥三河地域へ90分圏内となる人口が一挙に400万人増えてまいりますので、奥三河地域にとっての大きなチャンスができると思っています。

それから、この広域の幹線でのネットワークによりまして、物の流れとともに、救急搬送ですか、命の道としての効果、それから私ども内陸部にありますので、南海トラフ等の巨大地震におけるバックアップ機能などの役割を担っていかなければならぬかなと思っています。

既に三遠南信自動車道の効果で東栄町の温泉施設、豊根村の茶臼山の芝桜、あるいは私どもの湯谷温泉等も旅行客が2割方増えておりますけれども、新東名高速道路、さらに三遠南信自動車道が全線つながることによる効果、さらには浜松三ヶ日・豊橋道路によって海側と直接結びつけられること、こうした非常に希望をもった1歩が、一昨日の新東名高速道路の開通によってでき上がったと思っています。

それから道路のことから少しそれぞれかもしれませんが、私ども新城市内にはJR飯田線が通っておりますので、今後、飯田線の新城駅と道の駅、そして新東名高速道路、名古屋と道路をつないでいきたいと思います。この飯田線は長野県の飯田市まで続いていくJRの鉄道でありますけれども、それを観光やあるいは交流のためにもっと生かしていくような方策を合わせて考えていかなければいけないと思っています。三遠南信も三遠南信自動車道ともうひとつJRの飯田線、そして新東名

高速道路などのネットワーク、こういうものを生かした新しい交流を目指していきたいと、思っております。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。

実は、先ほど、経済団体の午前中の会議の中で、報告があったのですけれども、三遠南信自動車道の効果は、もちろん直接投資は長野県側が一番多いですから、絶対額として一番大きいのですけれども、波及効果のパーセンテージは実は愛知県側のほうが大きい額という数字が出ています。今お示しされた例えれば東栄温泉であったり湯谷の温泉であったりそういうところのお客さんが今出ている試算だけでもとても伸びているというのは、実は我々、真剣に受けとめる価値のある報告だということが示されております。

今日の新聞に載っていましたが、秘境急行を使った旅行会社のプログラムが大変人気だそうです。

それでは、新城市から始めたので、東三河を最初に攻めさせていただきまして、豊橋市議会議長の古関さん、お願いできたらと思います。

豊橋市議会 古関議長

豊橋の古関でございます。

新東名高速道路は、先日の2月13日に浜松インターチェンジから豊田東ジャンクション間が開通し、御殿場ジャンクションから豊田東ジャンクションの約200キロが新東名高速道路と東名高速道路のダブルネットワークになりました。この開通に伴い、新東名高速道路を経由した東京方面と三遠南信自動車道を経由した信州方面へのアクセスの向上が期待されます。

そして、高速道路のこのような背後に大きな産業集積をもつ本市にとっては、まさに工業製品の安定輸送とコストの縮減と、南海ト

ラフ巨大地震等の災害時における物流通の確保等、安全安心面が課題になっています。こうした課題を解消するためには、浜松三ヶ日・豊橋道路の整備が不可欠と考えます。浜松三ヶ日・豊橋道路の整備のために調査実施や三遠南信自動車道の整備を促進するために、行政、経済界、市民の代弁者である議会と一体となって国及び県への要望に取り組んでいくことが重要であると考えております。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございます。三遠南信自動車道の延長線部分といったほうがわかりやすいのかもしれません、浜松三ヶ日・豊橋道路、三ヶ日のいなさジャンクションから南の国道23号バイパスまでというお話をいただきました。

それでは引き続き豊川市長の山脇様、お願いします。

豊川市 山脇市長

豊川市長の山脇でございます。

一昨日の新東名高速道路の開通を大変我々も待望していたところでございまして、ご存じのように東名高速道路の音羽蒲郡インターチェンジ付近がいつも渋滞しておりますが、新東名高速道路の開通によりこれが大分緩和されるということで期待をしているところでございます。

実は、音羽蒲郡インターチェンジと名豊道路を結ぶ旧オレンジロードでございますけれども、これは今、大分渋滞をしているということでございます。これはやはり国道23号バイパスがまだ全線開通していないということで、蒲郡と豊橋の間の9.1キロが開通しておりませんので、これも大変渋滞しているということ、さらにこの地域国道では1号の国府付近等もいつも大渋滞しているということで、新東名高速道路とともに名豊道路の開通を一刻も早くお願いしたいと思っております。

それと、今、ここで新東名高速道路の新城インターチェンジが完成されたということで、実は南北軸が大分不足をしておりまして、ご承知のように新城インターチェンジと豊川のインターチェンジを結ぶ国道151号が非常に弱いということでございます。その間の新城バイパスは完成しておりますが、川田のところから豊川インターチェンジまでがまだまだという状況でございます。今、鋭意進めてはいただいているところでありますけれども、これも一刻も早い開通をお願いしたいということで、しっかりと鋭意協力しながら進めてもらいたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

そのために、御津庁舎に名豊道路の分室を設置いたしまして、市の職員も配置し、この地域の用地買収に必死になって頑張っている状況でございますので、ご理解をいただきたいと思っています。

それと小坂井バイパスは3月6日に無料化になります。東名高速道路の交通量の増加も大変期待するところです。これは一般道ですので、通行が多いということです。私は常々申し上げておりますけれども、名豊道路の前芝インターチェンジから東名高速道路の豊川インターチェンジまでを高架で結ぶと一層効果が出ると思っておりまして、これも進められるとよいと思っているところでございます。

そんなことでやはり道路も大変重要でございまして、道路によってこの地域の発展ができるかという本当に重要な課題と認識しておりますので、今後とも皆さんと一緒にになってこの解決に向けてがんばってまいりたいと思っています。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。

幹線道路、特に高規格幹線道路が大きな動脈だとすると、そこから末端のところまで大事な栄養素を血管で届ける、またそれにつな

がる道路として、需要地まで届くこのネットワークというか、網の目のような部分がどうしても必要になってくる。これは工業などの産業でもそうですが、観光地でもそうですね。それを上手にさばくことによってよい自然を守れれば、よい生産もできれば、みんなが活発にものを考えて行動を起こせるようになると思います。

それでは、引き続きまして今度は天竜商工会の会長の大村様にお願いしたいと思います。

天竜商工会 大村会長

天竜商工会の大村邦男でございます。このたび会長になりましたものですから、この会は初参加ということで今後お世話になりますが、よろしくお願ひいたします。

本商工会管内においては、三遠南信自動車道佐久間インターチェンジの開設を平成30年に控えております。将来的にはインターチェンジ周辺に集客可能な施設を建設し、経済基盤の強化や地域コミュニティ機能の復活が図られるよう、現在、その施策を検討中であります。

残念ながら、今現在、リニューアルの原田橋が全国で公表されておりまして、平成27年1月に発生した土砂崩れのため落橋したわけですけれども、生活基盤の道路を失っております。そのためにこのインターチェンジの町を二分しております、非常に苦労しておりますが、リニューアルよりも速いスピードで工事を行うということで新橋を念頭においていただいております。またあわせまして先ほどからお話を出る新東名高速道路は、浜北インターチェンジからこの三遠南信自動車道につながる道路でございますが、津波対策ということで、浜松の南区のほうへ運びながら、インターチェンジが避難道路につながるということで今進めておりますが、この道路が整備されるとさらに三遠南信自動車道、また新東名高速道路の効果も一段と上がると思ってい

るところでございます。

お願いばかりでございますけれども、当面は原田橋の早い完成が待たれているということでございますので、またお世話になりますが、よろしくお願ひしたいと思います。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。私も実は昨年の秋、原田橋の落橋のところを通過させていただきました。河川敷の中に仮設道路が通っているという珍しい道路です。実は、50年ぶりぐらいに佐久間ダムの紅葉を見に行きたいと言って佐久間ダムまで上がっていきまして、佐久間ダムのダム堤を越えて、今度は豊根村の方まで抜けて行ったことがありました。佐久間のインターチェンジを通っていただいて、ぜひ天竜木材で新しい国立競技場をつくってもらつたらいいなと思っています。

では、引き続き湖西の商工会会長の佐原様、お願ひいたします。

湖西市商工会 佐原会長

私のところでは、本当に良い話であります。大枠は大賛成ではあるのですが、ただ湖西市にとってこの道路は、まだ身に迫った道路じゃないのも事実であります。今後も良い道路が出来て湖西市が良くなるように期待している訳でございます。また、今までの状況を述べさせて頂きますと、2016年2月の新東名高速道路の全線開通によりまして、これまでの湖西市から三遠南信地域への交通は、格段と便利になりました。

また、課題となっていた東名高速道路の渋滞も大きく緩和され、さらに事故などによる渋滞発生も大幅に改善されたことで、より利便性が高くなっています、それはそれで大いに恩恵を受けております。

今後は、この地域の念願でもあります「浜松三ヶ日・豊橋道路」では無くて、「浜松・湖西・豊橋道路」の早期実現という事を、湖西

市の名前を入れた中で、お願ひしたいと思っております。

23年前に、三遠南信期成同盟が出来た時に、こういう「浜松三ヶ日・豊橋道路」という道路名が出来て、その後、ずっと私どもは名前の中に「湖西」という名前を入れて欲しい、と提案させてもらって発言をさせていただいた訳であります。予算化がされておりません。予算が付くときには、キチンとした地域調整がありますよ、と聞いている訳です。そして、いよいよ予算化がされそうな時期になりつつあるのではないか、と感じている訳でございますので、何とかお願ひしたいと思っております。また、湖西市は、浜松の西部地区を含めますと、工場出荷高が2兆数千億円ある地域という事から、物流その他諸々に大きな利用度のある地域でありますので、よろしくお願ひします。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。実は湖西の工業生産額が2兆円突破で、豊橋をまたいで田原の工業生産額も2兆円近くありますが、豊橋は1兆円ちょっとしかありません。多分南信州の方は御存じないと思いますが、浜松との結びつきも強いし、スズキ自動車さんとか一部ものは三河地方との工業とのつながりも強いということで、今、物流が現存の東名高速道路しかないものだから非常に苦労されているということを湖西の市長がおっしゃっておりました。

それから、名前の中に湖西がないということをずっと前から言わせていました、県境を出ると湖西と書いてあるよと僕が嘘ばっかりついていたのですけれども、そろそろそういうことにもいかなくなってきたなと思っています。湖西自身は本當にある意味、これから車の産業を支える部分がたくさんありますので、何か影響をさせていただければと思っております。ありがとうございました。

それでは、前半の部分の最後となりますけれども、鞍掛山麓千枚田の保存会会長、小山さんにお願いしたいと思います。

鞍掛山麓千枚田保存会 小山会長

四谷千枚田の小山です。

今、奥三河は非常に変わってきました。というのは、三遠南信自動車道ができる前は、四谷の千枚田に来るほとんどの人が浜松とそれから小牧の人々に限られていたのです。本当にどこからも来ないので、その人々は、「本当にあんたたち暇だのん」というような感じで来ていたわけです。

それが三遠南信自動車道で浜松いなさインターチェンジ、それと鳳来峡インターチェンジができたがためにうちだけで約1万人増えました。年間に2万5,000人増えているうち1万人が増えたわけです。湯谷温泉とか鳳来うめの湯、それから東栄温泉、芝桜、すべてが結んできたことです。

そこで、午前中、住民セッションを行いました。そのときに奥三河、それから南信州の活性化にどう取り組むかということで、ロードサイクリングを提案しました。皆さん、街中で働いてくれたら、奥三河、奥のほうへ来て癒しを求めたらどうかという提案です。例えば鳳来ふれあいパークとか、各道の駅、それから東名高速道路とか、そういうところを拠点にして奥三河、南信州の地域活性化ということで、そのリピーターづくりをしていくたい、ということを提案し、いろいろ議論しました。

そして、もう1つは、新東名高速道路、新城からうちのほうへものすごい数の人が来ることになります。それをどうさばくかが心配なぐらいになるのではないかと思います。だから、その逆に今までじつとしていた、蛙が冬眠から覚めたような時代が来るというようなことで大きな期待をもっています。

それともう1つ、売木村とか阿南町、国道

151号をどうもっていくかということです。それにはやっぱりブログサイトを見る、その拠点づくりということを提言します。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。今のお話であつたとおり最初のお話でもありましたけれども、三遠南信自動車道で実は一番効果が大きかったのは愛知県側だということでした。今までそうですし、これからもそうだと思います。それを生かすという意味でいろいろなご活躍をされていると理解しています。

サイクリングは、実はJR東海に「飯田線が土日は空いているから、自転車を乗せられるサイクルトレインにしよう」と言ったら断られたのです。実は意外と思われるかもしれませんけれど、今、豊橋鉄道の渥美線は土日はサイクルトレインになっています。当初のもくろみは、伊良湖にサイクリングに行く人に使っていただこうと思ったのですが、もくろみどおりいかずに田原のおばちゃんが豊橋に来て、自転車でまちなかで買い物をして帰るというパターンになっています。それでも、土日には何十台単位で使っていただいています。

それから、サイクリングで名を馳せる所というのは幾つかありますし、関東に近いところでは栃木の山すその方にあります。そこは何をやっているかというと、どこの喫茶店とかレストランでも、みんな自転車を気軽にかけられる、自転車をかける棚みたいな柵をつくって必ず置いています。

それから、尾道、今治のしまなみ海道もやっています。尾道などは特にしっかりとサイクリング専用のホテルがあって、そこは自転車のメンテナンスもできるし、いろいろなことがとにかくできます。それから、いろいろな大会のときに、脱落した選手たちが、自転車を後ろに積みながら帰って来られるバスまであって、まちづくりの中で結構気合を入れ

ているところがあります。

奥三河というのは実は、忌野清志郎さんが作曲や歌で行き詰ったときに湯谷に泊まって自転車で走り回っていたということで有名なところです。その道の人たちはとてもよく御存じで、亡くなられた後しばらく訪問客が多くなったという話です。大変大事ないい視点だなというふうに思って、私たちもいらっしゃいプロジェクトみたいないろいろなものと一緒にになっていけたらいいなと考えています。

今のところ6人の方からお話を伺いました。ありがとうございました。新東名高速道路の浜松いなさジャンクションから豊田東ジャンクションまで開通しまして、これによりまして大変大きな東西の道路ができたなと思っています。それだけではなく南北に通じる三遠南信自動車道との大変すばらしい効果がこれから期待される、生まれてくるのではないかと思います。そういう意味では実に大きなチャンスだと思いますが、それをどういうふうに生かしていくかが課題であることが冒頭にあることがわかりました。

それでは、続いて、今度は新東名高速道路に限らず、三遠南信自動車道、そして、浜松三ヶ日湖西豊橋道路(浜松三ヶ日・豊橋道路)を含む圏域内の同一幹線道路ネットワーク、このネットワークの形成を展望しまして、今後三遠南信地域が連携して取り組むべき重要な課題についてのお考えをお聞かせいただけたらと思います。

また、これまでの広域幹線道路ネットワークの形成がもたらしました地域振興などの具体例などもございましたら、それもありませてお話をいただけたらと思います。

今度は7名の方からご発言を賜りたいと思います。最初に浜松市議会の議長の鈴木様からお願ひいたします。よろしくお願ひします。

浜松市議会 鈴木議長

浜松の鈴木でございます。

この三遠南信地域の広域幹線道路ネットワークというのは、東西につきまして、飯田のほうの中央自動車道、こちら東名高速道路、新東名高速道路、国道1号バイパス、国道23号バイパスとしっかりとありますし、おととい新東名高速道路の新区間が開通したということでございます。そこに現在着々と進んではおりますけれども、三遠南信自動車道と東三河のほうの浜松三ヶ日豊橋道路と言つてしますと怒られますので浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）という形になっておりまして、浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）は調査が始まったということです。おかげさまで予算も順調についておりますので、我々としましても三遠南信自動車道が早く完成するということを、大変期待をしているところでございます。こうした国でのネットワークが進んでいくということは、今日のお話にもございましたけれども、三遠南信圏域の県境を越えての広域的な密接な連携につながっていくということで、圏域の経済発展のネットワークの中心になる形成の向上、それから今、地方創生に資する広範な交流促進、それから医療機関への搬送時間の短縮にもつながると思っております。それから災害時における輸送網の確保等で地域の安全安心、国土強靭化の視点からも極めて重要な役割をはたしていくものだと思っているところでございます。

こうした観点から経済の好循環をもたらす道路として効果が早期に發揮されて、大規模災害時には命をつなぐ道としての大変な効果が發揮できるよう、ミッシングリンクとなっている三遠南信自動車道それから浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）の整備促進については、我々が地域一丸となって連携して取り組んでいくことが最重要的課題だと認識をしております。

そして、改めましてこの三遠南信地域の連携を深めて、地域の連携議論というものもある

るわけですから、これから先この強力な連携をいかに活かしていくのか大変大きな大切な課題だと思っております。

そんなところでございます。よろしくお願ひします。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。浜松は東西の線が2本あり、3本目の国道1号バイパスが、僕らからするととても使いにくいかと思っているのですけれども、あまり話題にならないですね。だから、津波対策の防潮堤を造るという話になったとき、道路をそのまま上げて堤防にして立体交差の高規格道路にしてくれたらいいなと思ってみていたのですけれども、全然話題にならないので不思議だなと思って聞いていました。実は湖西に行くとき、今切のところの浜名湖大橋を渡つてすぐのところで立体交差がなくなってしまうとその後困つてしまうので、結構使い勝手が悪い道路の典型だと思います。

浜松市議会 鈴木議長

今は、政策的に余り道はつくらないでしょう。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

そうなのですね。ありがとうございました。三遠南信自動車道は予算が順調なので、多分今、皆さんそういう意味では浜松も南北の格差是正など、いろいろな立場からしっかりと道路の整備に力を入れていただいているなどということを強く感じました。

それでは南信地域ということで、飯田市議会の議長の木下様からお願いしたいと思います。

飯田市議会 木下議長

飯田市議会の木下と申します。

まず地域間の連携という観点で申します

と、今後発展が予想されます航空機の製造産業におきまして、アジアナンバー1航空宇宙産業クラスター形成特区の指定を受けました飯田、浜松、豊橋の連携を新東名高速道路、三遠南信自動車道の整備により、強化し、航空機生産拠点であります中京圏からの受注拡大に期待が持てる、ということでこの三遠南信自動車道に期待をもっているところでございます。

もう1つは、安心安全という観点でまいりますと、プレート型巨大地震により大規模な被災が想定される太平洋岸都市を支援するために、内陸と太平洋側を結ぶ災害に強い道路による広域防災ネットワークの構築という期待を込めまして、安心・安全、それから経済交流ということで三遠南信自動車道に非常に期待をもっているところでございます。

今日も私、朝6時半に家を出まして、中央道から回って東海環状を通ってお邪魔しました。なかなか近くを通るのが三遠南信自動車道でございまして、この三河地区と遠州地区は非常にいい道路が通っているのでございますけれども、南アルプスの向こうにある南信へは、まともな道路が通っておりません。アルプスで寸断されてしまっているわけでございます。南信地区の皆さんのがいかにこの三遠南信自動車道に期待をもっているか、こういうことでございますので、どうかひとつ早期開通をお願いするところであります。

ただ中央道の山本インターから天竜峡、ここまで区間が7、8年ほど前に開通し、供用されました。これによりまして飯田下伊那の南部地区、下條村とか阿南町とかそちらの地区の皆さんのが非常に中心地へ出てくるのに便利になったとか、中央道を利用しやすくなったりとか、また飯田市を見ますと、天竜峡ファクトリーパークという工業団地というのがあるのですけれども、そこでもその敷地が大分売れたとか、観光面でもある程度観光客が増えたとか、いろいろいい整備効果が出てきて

おります。やはりそういうことを考えますと、今、天竜峡から矢筈トンネルまでの工事が完成し、青崩峠が完成しますと、三遠南信自動車道が開通します。南信州の皆さんのが本当に楽しみにしておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと、こういうふうに感じところでございます。

よろしくお願ひいたします。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。航空機産業のクラスターということで、それぞれ技術をもった企業が入っていたのだと思います。飯田市は、精密の計測器などで飛行機に積めるものを作っている企業が結構あります。飛行機と言えば飛行機の座席シートですが、この間全日空が採用してくれたという座席シートは、豊橋の工場でつくっていて、クッションも豊橋の工場でウレタンをつくっているということです。多分ここにいる人はほとんど御存じないと思いますけれども、多少は貢献できているのかなと思っています。浜松も当然先端の技術をもってやっていますし、非常に似通った産業がもともとあります。昔は物を動かすには河川が一番よかったので、古くから天竜川、豊川を使って、河川が文化としてつながり、その後、飯田の方が一生懸命頑張っていただいた飯田線が明治の時代にできて、それで今度は鉄道でつながりができました。車となつた今は途切れてしまっている。ここが三遠南信自動車道でつながって、さらなる飛躍を3段階目のステップになるというのはとても大きな意義だと私も思っています。

何よりも大きいのは、一番期待のある油を実は中央道で運べないという状況ですね。長いトンネルがあるために危険物積載車は通れません。油は今、中央線、鉄道で長野県まで運んでいます。東も西も鉄道で上がっています。三遠南信自動車道ができれば、自由に車で運べるようになる。これは、もちろんコスト

トとかいろいろな問題がありますし、先ほどあった防災面でのいざというときの緊急避難道という意味でも大きいと思っています。ありがとうございました。頑張っていきましょう。

それでは引き続きまして、田原市長の山下さんからお願ひします。

田原市 山下市長

はい、わかりました。道路ができたことを1番うらやましく思っている1人の山下でございます。

まず、広域幹線道路ネットワーク形成、地域間交流についてお話したいと思いますが、多様性に富んだ三遠南信地域の資源を生かして農商工連携、そして、6次産業化を行うことが求められています。例えば田原市では、地元産の紅あずまというイモを長野県飯田市の酒造会社に委託をいたしまして、中央アルプスの伏流水を使って芋焼酎、亀若というものを製造いたしております。現在、よく売れておりますので、ぜひお買い求めいただきたいと思いますが、広域幹線道路ネットワークが形成されれば、こういった産業界での地域間連携はより一層可能性が広がるのではないかと考えられます。

また、観光面において、渥美半島は温暖な気候を生かした菜の花、それからいちご狩り、サーフィンなどの多くの観光資源があるように、三遠南信のそれぞれの地域にも多くの観光資源がございます。幹線道路ネットワークの形成は、それらを結びつけ、市や県境を越えた魅力的なエリアとして、発信していくことがより一層現実的なものとなると考えます。三遠南信地域、ひいてはさらに広域的に伊勢地域から北陸までつながる昇竜道を見すえて、圏域内外からの集客が可能になるのではないかと考えます。

そして、次に地域振興における効果の具体的な事例をということでござりますので、も

う1つあげさせていただきたいと思います。田原市から農産物の物流形態としましては、重要な国道259号または国道42号から国道1号、これは浜名バイパスでございますが、そこを経由して東名高速道路へという流れで浜松インターチェンジまで約2時間かかっていたものが、潮見バイパス及び豊橋東バイパス開通後は、浜松インターチェンジまで約1時間半と時間が短縮されて、早く着くことが可能となりました。

農作物は、市場の競りにかけられ価格が決まるため、早く、安く、そして確実に市場に届くことが必要不可欠でございます。そのためにもこれらの広域幹線道路ネットワークの整備効果は大変大きなものになっております。浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）が実現した場合、さらに時間短縮が可能になります。そのために農業分野にとっても非常に大きな効果が得られると期待しております。

また、浜松地区からも三河港の利用がしやすくなった点、田原から浜松地区への通勤が可能になった点なども具体事例としてあげられます。今後ともさらなる地域振興のため、広域幹線道路ネットワーク形成に取り組んでいきたいと思います。ぜひ皆さん方と一緒にになって、取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。地震があると交通が止まって、地震の揺れとでこぼこの揺れと両方があり、二重苦、三重苦で大変だと思いますけれども、防災上良い道は揺れが少ないのが何よりも大事なことですから、ぜひいいものを一緒につくっていきましょう。

それから、ネットワークができいろいろなところでいろいろな良い作物が1年中とれるという環境があることは、実は1番大事なポイントでもあるのです。私も海外にセールス

に行って分かったのですが、「一年中この枠をあなたたちは埋めることができますか」と必ず問われるのです。そうすると、例えば「豊橋のトマトは夏には出せません」と言った瞬間に、「じゃあ無理ですね」という話になります。その時に、気温の高いところと低いところの差を利用したり、日本のいろいろな地域の特性を利用したりして、「代わりのものを出せますよ」とか、いろいろなことを言えるような大変大きなマーケットを大切にしたいと思っています。ぜひそういう意味で、1次産業、2次産業、3次産業、それぞれにおいてネットワークでお互いのいいところを上手に生かしながら活用していくことができるようになる、そんな関係をつくっていきたいと思っています。

それでは次、4番目になりますけれども、駒ヶ根市の市長の杉本様からお願いしたいと思います。

駒ヶ根市 杉本市長

駒ヶ根市長の杉本でございます。

駒ヶ根市は地図で見るとこの三遠南信のサミットの1番北のはずれになるでしょうか。それから、この会議に入らせていただいたのも私になってからですので、本当に新米中の新米であります。今日は経済界を代表する皆さんにお見えですけれども、三遠南信自動車道ができるこの経済効果の大きさというのは、経済界の皆さんからも大きく出ていました。

特に東日本大震災を契機に、この三遠南信自動車道は改めて見直されました。いざというときに中心部からの支援をする命の道になるということで、一気に予算がたくさんついてきて現実のものとなりました。と申しますのも、伊那谷とこの三河の縁は昔から非常に強いわけであります。特に今日はサミットの前段で紹介がございました磐田市のしつらい太郎伝説のもとになる早太郎伝説の光前寺

は駒ヶ根市にあります。もともと青崩の道を昔の人は通っていて、その他いろいろなルートがありました。また、私の小さい頃もそうなのですけれども、三河漫才が必ずお正月になるとうちのほうに回ってきました。それから、秋葉講はもちろん盛んで、これからまちづくりをしていく上で歴史とか伝統文化を大事にしたまちづくりをすることというのは、やはり1番重要なことと思っておりまして、今回、このサミットに加わらせていただいたところでございます。

上伊那郡は8市町村あるのですけれども、南のほうの4市町村だけが今回合併しております、実は北のほうはまだ理解をいただいているないというのが現実でございます。ですので、上伊那の8市町村のうちの南部につきましては、今回このサミットに加入させていただいております。

というのも、やはりまちづくりを進めていく上で、それに加入すると同時にこの南信地域をもうひとつの高速交通網、リニアの新幹線が14年後に開通する事になっていますので、リニアとこの三遠南信自動車道の整備効果をいかに地域経済の発展につなげるかということで、今県と一緒にになって考えております。実は先週の金曜日に知事を座長にする伊那谷自治体会議というのができておりました。上伊那と下伊那全部の首長が入った会議です。その中でリニア、また三遠南信自動車道を生かしたリニアバレー構想というものを固めさせていただきました。4つの柱があります。

1つが、リニアができますと国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点として世界とつながる、ということがひとつのキーワードであります。それから、この三遠南信地域でいえば、13兆円から15兆円という経済圏の中に、また250万という人口圏の中に一緒になることの経済効果をしっかりと出していこう、というのが1番目の柱です。

2番目が日本を支えるということでありま

す。巨大災害時のバックアップと食料、エネルギーの新しい供給拠点になろうというのが、2番目の柱であります。これはまさに三遠南信自動車道が急ピッチで進んでいる所以かなというのと同時に、いざというときにリスク分散をするという意味で研究、また医療等の拠点の受け皿になればいいのかなというのが2番目の柱であります。

それから3番目の柱が、ここで豊かに暮らすという視点であります。普段は大都市圏に住んでいても、週末とか一定期間に限って豊かな自然の中で、また伝統文化に触れて暮らす、そんな新しいライフスタイルをここから提供する対流促進圏域を形成したいというのが3番目の柱でございます。

それから4番目の柱が、ここで触れ合い、世界から多くの人が来て感動のフィールドにするという、滞留型観光の拠点施設にしたいということあります。それから特に当市においては、青年海外協力隊の訓練所があります。全国2か所しかありません。お陰さまでここから多くの若者が世界の各国に旅立っています。そんな環境がありまして、多くの國の大天使の皆さんが駒ヶ根市に来ていただいて、いろいろ交流するのです。ちょうどその時に、東京から90分ぐらいで行けますし、リニアができた時に、例えばここに大使村というのをつくったらと私が話したら、何人の大使が協力しますよと言つていただいたので、今、新しい観光フィールドとして大使村構想というのをつくりさせていただいて、地方創生の中でもそうしたことを掲げさせていただきましたら、外務省のほうからも面白いなと言われています。青年海外協力隊の訓練所があるのも、実は外務省の青年海外協力隊の部門も駒ヶ根に持ってきてもらいたいという省庁移転も一緒に預けてお願いしているのですけれども、大分こっちのほうが厳しいのでしょうか。やはり東京オリンピックを考えた場合、東京一極集中の投資よりも地方にもと

いうことがあるので、我々としてはこの三遠南信自動車道を見越して、空いた時にいつだって人が来てくれるようなそんな拠点施設をしっかりと作っていくことが重要だし、そういう意味ではこのメンバーとお互いに連携していかないといけないのかなと思っています。三遠南信自動車道の早期の開通、それからリニアを見越した将来のまちづくりをしっかりとしていくたいという思いもありますので、また皆さん方と連携ができればいいかなと思っておりますので、よろしくお願ひすると同時に、一時も早い三遠南信自動車道の整備について皆さんのお力もいただければと思っていますので、よろしくお願ひします。

ちなみに今朝来るときですけれども、豊田東から新東名高速道路ができたというのでどこまで行けるかなとやってみました。インターチェンジがどこにあるのか全然わからなかつたので、新城で降りて、国道151号で来ました。最初、ナビでは豊田ジャンクションを8時10分に出てこっちに來るのに11時5分に着くとあったのです。新城を回ったら11時3分になつたので、そっちを回ったほうが早いでしょうね。渋滞があったので実際に着いたのは11時10分ぐらいでしたが、本当に早く、快適ですよね。豊川でB-1グランプリがあつたときは国道151号を使ったので、昔からの道も通りながら来られました。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。新東名高速道路の感想を述べていただきありがとうございます。私も、光前寺をのぞいたことがあります。何かおもしろいなと思って話を、物語をいろいろと、読ませていただきました。「二人静」という旅館に泊まって山は登りませんでしたが、朝行ったら混んでしまって大変だったんだろうなと思います。

新東名高速道路は、早く便利なのですけれど、景色はどうですか。

駒ヶ根市 杉本市長

山と谷ばかりです。それに関していろいろな話をしていると思います。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

国道151号を僕も去年、通ったのですけど、下條村へ入る途中交わるところで、まだ、大変なところが何か所かありました。御苦労さまでございます。

駒ヶ根市 杉本市長

キーワードは、飯田線だと思うのですが、これから連携する中で私は飯田線をサイクルトレインにしたいとお願したのですけど、すぐ断られてしまって全然ダメでしたけど、結構自転車に乗る人もいるので、飯田線の活性化というのもぜひ、あわせればいいなと思っています。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

同じことを飯田の市長もされたそうですけれども、全員門前払いをされてしまったということですね。

駒ヶ根市 杉本市長

電車に乗りたい人もいるけど、そんな車両をつくって、もし何か事故があった場合に誰が責任を取るのですかと言われました。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

僕は違う理由でした。新城駅で、自転車を抱えてあそこを渡るのかと言わされました。それぞれ、言われている理由が違います。ありがとうございます。

それでは、今少し話題になった下條村の伊藤村長お願いします。

下條村 伊藤村長

下條村です。ここへ来ると国道151号という言葉が出るのですけれども、よそに行って

国道151号などという言葉を聞いたことがありませんので、ありがたいなと思っております。その国道151号は当然、飯田市から豊橋市の間の道でございますけれども、その沿線飯田市があって、その次に下條村という非常に小さな村があるわけでございまして、そこから参ったわけでございます。

私がこの世に生を受けて長いほうでございますけれども、今日、毎回この三遠南信の会合というのが盛会になってきてありがとうございます。

最初に私、昭和50年に初めて市議会に出させていただいたわけでございますけれども、そのときに飯田の計画する皆さんがありましたて、当時は浜北市でしたけれども、浜北市の田んぼの中にプレハブをつくって、そこへ行って「三遠南信というのをこれからつくるから見て來い」と言われて、何もないところへ行かされました。

当時、浜北市の市長さんは、若い方でございましたけれども、途中で何か問題がありましてお辞めになられた方でございます。住宅団地を見せていただいて「いやあ、すごいものだなあ」ということを強く印象に残ったことがあります。

それからの歴史でございますけれども、隆盛になったりそれから衰退したりということで、相当波がありました。そして、今回23回目ということでございまして、会場いっぱいのみなさん、熱気あふれる雰囲気の中で、いよいよ活発な議論をされたというのは、ありがたいことだなと思っております。

今日のテーマというのは、地域連携ということでございますけれども、私どもの地域のことを恥さらしのようでございますが申し上げると、そんなことがあったのか、というぐらい大変なところでございます。飯田市を中心におき、南信州広域連合というのを組んでおります。そして、その上が伊那谷ということでございまして、駒ヶ根市の商工会議所会頭

さんがおられるわけでございますけれども、その皆さんと一緒にになったのが伊那谷ということでございまして、私たち南信州ということを考えてみると、飯田市を中心として13の町村がいまだにあるということでございます。

何故合併しないかということでございますけれども、もう面積が広くて、四国の香川県並の面積でございます。林野率、平坦地対林野をみてみると、86%が林野、ということは、14%の中に住宅があり、耕地がありということでございまして、いくら国が、合併、合併と言っても全然、効果が出ないということで、3つか4つ減って、今、1市13町村でやっているところでございます。

そのために今、サイクルトレイン、サイクルの電車ということでございますけれども、あれは、考えられないということで、大体自転車に乗って遠距離を走るなどということは、それだけ経費がかかるわけでございまして、その考えも及ばないということが現実行ってみればわかると思います。

その中で、歯をくいしばって三遠南信自動車道がもう少しだ、そして、リニアがもう少しだということで、皆力を合わせてやっているところでございます。

地域連携ということでございますけれども、我々どもは、地域というと道路でございます。そうすると、道路連携というように考えます。先ほど飯田の市長さんが言いましたように、10年ほど前に降って湧いたような、リニア中央新幹線がJR東海で発案されて、あれよあれよという間に今の状態になったわけでございます。コースも決まり、駅も決まりそしてまた、時間距離も決まりということでございまして、今現在は、飯田市から東京へは、急行バスという名前の乗り物で行くのと、4時間15分、名古屋へは、2時間10分くらい。そして、浜松には2時間半かかるので、まさに陸の孤島でございますけれども、その陸の孤

島が、丸10年いたしますと、東京、品川から飯田までが45分から43分という時間になり、三遠南信自動車道は100キロでございますので、これがまた新東名高速道路、そしてまた浜松のほうに、あっという間に行けるという、画期的な計画があるわけでございます。

そうすると、今まで三遠南信自動車道もものすごくかかっていたものでございますが、それにプラスリニアということになって、三遠南信の結節点ということになって相乗効果が上がって、1足す1が4くらいの効果が出るということで、私どもも期待しているところでございます。

まだまだ言いたいことがあるのですけれども、1つ、感得したことがございます。三遠南信自動車道は沿海地方の災害があった場合の支援道路、南北を結ぶ国家強靭の道ということで位置づけておるわけでございますけれども、そのトンネル、青崩トンネルということで、日本でも3大破碎地帯の地を通るということで、私も現地に行って1、2回見てきました。何でこんな山奥に、そしてまたこんなに条件の悪いところを開けるのかということで、疑問に思ったのですけれども、この道は5キロ以内に收めれば、危険物が通れるということでございます。物資援助のとき、東北地帯を見ても、油が送れないということで非常に問題になったわけでございますけれども、そのために山の奥の非常に条件の悪いところを、5キロ以内に收めて、強引に道を通すということでございまして、なかなか素晴らしい計画だなということを感じているわけでございます。

いずれにいたしましても、一日千秋の思いで私ども、待っているわけでございます。それなりに活動を、力を尽くしてやっているところでございます

この際、また1つさらにその流れを一層強めていただく会であっていただきたくお願い申し上げて、報告とさせていただきます。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございます。

5キロを超えると危険物が通れないで、5キロ以下に収めるルートが必要だということで、今、御説明いただいたとおりでございます。ありがとうございます。

それでは続きまして、駒ヶ根商工会議所会頭の山浦さんよろしくお願ひします。

駒ヶ根商工会議所 山浦会頭

駒ヶ根商工会議所の山浦でございます。先ほど、杉本市長さんのほうからもお話がありましたが、この度の市長選に無投票で再任をされました。ですから市民全員の支持を得たという状況でございますので私も全く市長と共に認識、同一の危機感を持っております。内容には重複した部分も一部あるかと思いますけれどもお許しをいただきたいと思います。

駒ヶ根市は、南信州の1番北の、飯田から4、50キロ離れているところにございまして、多少認識の違いといいますか、意識の違いというものはこの三遠南信自動車道にございます。

駒ヶ根は「アルプスがふたつ映えるまち」をキャッチフレーズにして山岳観光都市として、観光産業にも力を入れております。登山客を初めといたしまして、全国から多くの観光客の皆さんのが来ていただいておりますし、インバウンドの海外からのお客様も大勢見えるようになっております。

また、歴史的にも製造業が盛んな地域でございまして、三河、遠州地域の企業との取引も従来から大変多く行っております。広域避難道路のネットワークの形成で南信地域の精密部品、また電子部品、自動車部品業界と三河、遠州、南信の三遠南信地域の大手企業との取引が飛躍的に伸びると期待をしております。三遠南信地域全体への大きな経済効果を期待しているところであります。もちろん、輸送コストの削減とか、時間の短縮も十分にあります。

また、中央アルプス駒ヶ岳には、東洋一のロープウェイがかかっておりまして、温暖な三遠地域からアルプス高原地域までの標高差1,000メートルを1時間ちょっとで行き来ができるという時間短縮ができます。一大広域観光圏が実現するのではないかという期待をしております。大都市から観光客の流入も大きいものと思っております。南信地域、または、駒ヶ根地域の観光産業の一層の活性化に結びつくと期待をしております。

駒ヶ根市の第4次構想を見ますと観光客は現在120万人が見えていただいているのですけれど、200万人にふやして、1人当たりの観光客のお客さんから、1万円くらいのお金を地元に出していただくと、200億円の消費が地元に落ちるというような第4次構想の中でそんなもくろみを立てております。

連携して取り組ませていただきたいことは、三遠南信自動車道と中央道の結節するところは、現在では山本インターチェンジであります。飯田の北部方面にあります上伊那地域から見ますと大変遠回りになりますので、なんとか三遠南信自動車道の氏乗インターチェンジあたりから、国道153号へ接続し、またリニア新幹線の新駅へつながって座光寺スマートインターチェンジへつながるような高規格道路を上げていただくようなことを連携していっていただければ、地域全体にとっても一層利便性が増すと思っております。

国道153号の整備が行われております、伊南バイパスができております。飯島地域まで今、あと2キロを残すだけで道路が整備されております。完成されました駒ヶ根地域では、素晴らしい景観に配慮したまちづくりが行われまして、素晴らしい街並み、そこへ若い方たちの住宅が建ってきておりまして、そのバイパス沿線には、大型店舗も進出しておりますし、有名専門店が、次々に出店をしております。また、枝線も整備されておりますのでこの10年間で、工場立地も2倍くらいに増えて

いるということを言われております。

産業の発展、雇用増加には、どうしても道路整備が地方にとっては生命線だというふうに感じております。駒ヶ岳スマートインターも、平成29年に開設が予定されておりで、一層駒ヶ根地域が、発展をすると思っておりますし、また伊南バイパス沿いには、道の駅が飯島地区で今、建設中であります。まもなく開駅がされると思いますが、これができると地域産業の活性化が一層進むと期待しているところであります。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。駒ヶ根からは、行政も経済圏も一体化という力強いお話を伺いました。

三遠南信自動車道で、考えてみると我々と三遠南信サミットをやっているこの地域のメンバーにとってDNAのような存在かなと思っています。ぜひ、発展していただきたいと思います。

それでは、発表される方として最後になりますけど、NPO 法人地域づくりサポートネットの代表理事の山内さんからお願ひいたします。

NPO 法人地域づくりネット 山内代表理事

御紹介いただきました、山内と申します。

私のNPOは、浜松を拠点にして活動しながら、三遠南信地域住民ネットワーク協議会の世話人を務めています。そんな関係で今日は、住民ネットワーク協議会の中で、昨年12月にワークショップを開きながら、このサミットの分科会でどういうことを言うかと今日も午前中、住民セッションの中で、それぞれの分科会でどんなことを言うか、あるいは、ほかの人たちはどういうことを言ってほしいかということを言ってもらいながらそれを代弁するというようなつもりで来させていただいております。

そんなことで、2点私からご紹介なり、提案をさせていただきます。

1つは、先ほどサイクリングの話がありましたけれども、やはり高速交通が整備されてきて、そうするとより速い時間で目的地の近くまで行ける。そうしたら、そこで地域のいろいろな道、脇道であたったり、旧道であったり生活の道をめぐるというようなことの中で、実は皆さんのお手元のところには、行き渡っていないのですけど、こういった浜松サイクリングロードの国土交通省の社会実験を今年度やりました。

中日本さんもお見えになっているのですけれど、浜名湖サービスエリアは、新東名高速道路が延伸されるとますます利用者が減るだろうと、そうすると駐車場に余裕がでてくるわけです。今は、ぷらっとパークから入ることができて、それと20分で遊覧船がやってくるのですけれども、そこを起点にどこかへ、2時間ぐらいちょっと行って来られるではないかということです。これは、自転車で出るとかあるいは、船に自転車を載せてそれで少し走ってもらって他のところへ行けるという、そんなような形の楽しみを1つしながら、さらには、もうちょっと滞在型でやっていくために地域の受け入れ態勢として地域のコンビニとかカフェとかそういったところを自転車の休憩所にしたり、情報拠点を自転車の駅にしたり、あるいは、サイクリストをトレッカーの宿みたいなところに登録したり、そういうサイクルツーリズムの取り組みを今、浜名湖でやろうとしています。

その中では、天浜線に乗せたりとかあるいは、船に乗せたりとかいろいろやってバスとかそういうモーダルミックスなんかもやりながら、地域をめぐるということで、ことしのテーマは、新東名高速道路の延伸効果であろうと、その影響で逆に在来の東名高速道路が減る、減ることを逆手にとってそこをうまく地域に開かれたパーキングエリア、サービス

エリアみたいな形の多機能化とか、多面的利用ということを社会実験としてやっていました。

それもサイクリストの人たち、道路と観光の行政の方々、企業の各団体のそのようなNPOが事務局を務めながら国土交通省とか県も入って、そういった広域の連携をやっていました。そういった中でサイクリストの人たちからは、やはり天竜の地域であるとか、さらには田原とか、新城、普段そっちのほうも走っているよ、というようなことがあると、利用者の人たちには、浜名湖ではなく、渥美半島へ行ってみたりとか、鳳来に行ってみたり、いろいろな方面に行きたがるということで、そうすると、まさにこの三遠南信自動車道が整備されていれば、近くまで行ってちょっと走れます。ロードで大体100kmとか200kmとか走る人はざらにいますので、浜名湖は60、70kmで短く、もっとロングがほしいというのが実は今のニーズなのです。だから、そういった実際の利用者のニーズもきちんと取り入れながらやっぱり三遠南信自動車道とかに入れ込んでいくというような連携を我々地域ネットワークも進めるべきだなと思います。

先ほど自転車のラックの話で、那須町にはありますが、浜名湖は、天竜材を使ったラック、湖西ではものづくりの中小企業がラックをつくって、そこに木のバーをつけて、サドルをひっかけるタイプのものをつくるなど、三遠南信のいろんな地域のものを使いながらラックとか休憩所みたいなものをそれぞれ共通で情報発信していくというようなことができたらいいなというふうに思っています。

もう1つは、全体会のときにあった民俗芸能の話です。三遠南信は民俗芸能の宝庫で、祭りのある地域、祭り街道と称して、阿南町とか東栄町とかいろいろやっています。それを三遠南信に広めようという動きがあつて、それでずっと国土交通省のほうにも我々の方から要望していました。今年度、三遠南信の

祭り街道の基礎調査からやりたいです。それは道の駅を拠点にそこをゲートウェイとして祭りのある地域の風土、歴史、文化、食、自然などを紹介しながらそうした地域の普段の暮らしぶりをめぐってもらうような情報発信などを、道の駅とか地域の拠点を生かしながら行います。それは、道の駅のネットワーク化みたいなことにつながっていって、この三遠南信へいろいろな方面から来る、あるいは海外からのインバウンドで来る方にも案内してめぐってもらいます。お祭りは365日の何日分しかないけれども、残りの日でも訪れてもらえるし、そういった仕組みを考えていく必要があります。それらを道の駅とも連携しながら地域のゲートウェイとして生かしていくたらということで、今、国土交通省が遠州をまずモデルにちょっとやってみます。

来年あたりは、東三河とかあるいは、南信州でもやれたらという、本当は全部でやればいいのですけれども、国道事務所が管轄なものですから自分たちのテリトリーを越えてしまうわけにはいかないということで、まず、試しに遠州でやってみます。だからそれを今度は、ほかの方面に広げていこうということで考えておりますので、また行政の方々、あるいは商工会議所の皆さんに、こういった動きにご協力いただきたいなと思います。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

ありがとうございました。サイクリングの話や祭り街道の話を紹介していただきました。

サイクリングロードは、渥美半島も県が途中まで作って手放してしまったものがあり、途中少し危険な国道を通ったりするためどうしたらいいかと思っているのですけれども、一応県のホームページには、サイクリングロードと載っているのです。だから、途中少し海岸になっているあたりは大変ですけれども、上手に使いたいと思っています。それから下條村の村長さんのお話で、定年になると動け

ないとありましたが、動いてしまいます。こうした人々は、どんな坂でも山でも登って行ってしまいます。国道151号でもたまに走っています。愛知県から長野県に抜けたりして、国道152号も走っていたりします。それくらい行ってしまうのでぜひだまされたと思って、まちで1番の若い人向けのおいしい店を出してみたり、ラックをつくってみたり、サイクリングにも取り組んでほしいと思います。

祭り街道の話で、別の意味で祭りは地域のDNAだなど私ども思っていて、ぜひつなげて行きたいと思います。ありがとうございました。

そんなふうに地域間で取り組んでいらっしゃるいろいろな産業であったり、観光であったり文化交流等々、県内外の広域幹線道路ネットワークの整備が大変まちづくりに生かされていることがわかりますし、また我々ひとりひとりが頑張っていきたいと思います。

以上、発表者からはこれだけです。本当は、時間が押しているのですが、私の信念として、何かこの際言っておきたい、話しておきたいということありましたら、お時間少しだけですけれども取らせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

新城市議会 柴田議員

本日の三遠南信のことを思いながら新城市で市議会議員をやっております柴田賢治郎と申しますが、新城に新東名高速道路が通りまして、東西の充実とともに、ぜひ南北のアドケーションとして、南北の動きを活性化していきたいと思っております。そんな中で、江口様にお聞きしたいと思ったのですけれど、兵庫県のほうでは、東名高速道路の中に流通センター、流通の拠点をつくったというようなことがあったらしいのですけど、新城のほうにそういったことができたのかそういうこともと聞いてみたいなと思いました。また、規模の大きさは違えども、旧道のほうにバリ

アのところが開いているものですから、そういうところからETC等が使えたらしいなど、あわせて聞いてみたいなと思いました質問させていただきました。

中日本高速道路株式会社 名古屋支社 江口建設事業部長

1つ目は、流通センターですか。

新城市議会 柴田議員

はい、大和ハウスさんとかがやられているとか。

中日本高速道路株式会社 名古屋支社 江口建設事業部長

アクセスできるようにということですね。

新城市議会 柴田議員

そうです。東名高速道路内に物流センターを入れ込んでしまったという。

中日本高速道路株式会社 名古屋支社 江口建設事業部長

中日本ですか。

新城市議会 柴田議員

いや、兵庫県ですので西日本ですね。

中日本高速道路株式会社 名古屋支社 江口建設事業部長

ちょっと私もそこらへん詳しくはないのですけども、スマートインター的な形で連絡、連結するという形の協議、それも自治体の発起という形でいろいろスマートインターとかつくりていただいているのでそこは、自治体の方でいろいろ調整されて、スマートインター的なもので連結するということは、できると思います。

そういう形で、東名高速道路の上郷あたり

はトヨタの工場が近くにありますが、スマートインターで連結をしていると聞いておりま
すし、本線でもそういう勉強会等で、岡崎あたりにそういうスマートインターをつくるとい
いかも知れません。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

豊橋も頼んでいます。

チェックバリアを使っての物流、長距離トラックの運転手の労働時間のこともありますので、乗り継ぎ地点にするとか、いろんな意味で使えないかと思います。

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

江口建設事業部長

中心というより、国のほうとか自治体の勉強会をつくっていただいて、その中にも中日本は入りますけども、その中で進めていければいいのではないかなど。

コーディネーター／豊橋市 佐原市長

今お話をされたのは、インターチェンジで降りずに、というものですね。

ついでにスマートインターもということを言っているのですけど、うちの道路関係部局もあまりよく理解できていないかも知れないで、我々ちょうど担当部署も来ているのでよく勉強して、中日本さんとも話し合っていきたいと思っています。

豊橋市はインターチェンジが全然ありませんし、田原市に至っては、高規格道路すら1つもないという、大変厳しい状況です。その中で2兆円でつくっているのだからすごいですね。

それでは、一通り皆様方のお話を頂戴しました。それで、実は私の立場としては、「道」分科会の意見交換の取りまとめを報告会の場所で発表しなければいけないというのがありますので、3点ほどにまとめます。

まず、1点目として新東名高速道路の開通、

そして三遠南信自動車道の整備によりまして、中央自動車道、東名高速道路、それから浜松三ヶ日湖西豊橋道路(浜松三ヶ日・豊橋道路)、広域幹線ネットワークの充実が進んだということだと思います。これがさらに、将来はリニア新幹線、飯田駅等で連絡することで沿線地域の交流にとどまらない、広域な交流ネットワークの形成が期待されているという点です。

それから2点目は、三遠南信地域の南北軸の交通基盤であります飯田線の話です。飯田線を活用して、広域的な活動の活性化を図るとともにリニア開通の経済効果が三遠南信地域の流通を進めることが重要であり、これは、鉄道系の話を取り入れさせていただいたということです。

それから3点目は、三遠南信自動車道を中心と考えていますから、三遠南信自動車道は私たちのこの地域の全員が持つDNAをまさに結びつける道路であり、医療機関への搬送や、災害時における緊急道路確保との観点からも、三遠南信自動車道の整備促進が重要であって三遠南信地域の創生の観点からも三遠南信地域の圏域の内外をむすぶ広域幹線道のネットワークを活用して、この三遠南信自動車道を上手に使うことで地域への新たな人の流れに結びつけるのが重要であります。

そして、もう1つ付け加えるなら、皆さんからお話をありました高規格の広域幹線道路が大事だということです。ただ、それからいろいろな地域の需要に対応する、観光であれ、産業であれ、安全であれ、安心であれ、血を通わせるには、その幹線道路とその地域を結ぶそれぞれの周辺地域への、周辺の道路の整備、そして活用が大変大切だということを加えさせていただけたらなと思っております。

こんなふうに、もうちょっとと言葉を上手に続けた上で発表させていただきたいと思います。

皆様のご協力によりまして、内容の濃い、

そして皆様方、十分な発言をいただけたのではないかなどと思っております。参加されました皆様方に心からお礼を申し上げたく存じます。

以上をもちまして「道」分科会を閉会とさせていただきます。